

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
①第三者評価機関名	
特定非営利活動法人 福祉総合評価機構	
②評価調査者研修修了番号	
SK18279	
17-A001	
③施設名等	
名称：	児童養護施設 希望の灯学園
施設長氏名：	楠本 千春
定員：	35名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	南松浦郡新上五島町鯛ノ浦郷303-6
T E L：	0959-42-0204
U R L：	www.ans.co.jp/n/brelkai/kibou/
【施設の概要】	
開設年月日	1880/08/10
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人ブレル会
職員数 常勤職員：	18名
職員数 非常勤職員：	14名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	9名
有資格職員の名称（イ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	調理師
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（エ）	
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	
④理念・基本方針	
<p>理念</p> <p>キリストの言葉に基づいて、小さな命への奉仕を始めました。私たちは、その精神を今も引き続き、キリストの愛の心を、特に家庭に恵まれない子供たちに伝えるよう努めます。また、経営母体であるお告げのマリア修道会の保護者であり、模範である聖母マリアに倣い、細やかな母心を持って、一人一人と向き合い心身の成長を助けます。</p> <p>基本方針</p> <p>児童福祉法に基づき、保護者のいない児童、その他環境上養護を必要とする児童をカトリックの愛に基づいて、奉仕と感謝の念を培い、自主性、独立性、創造性、批判性を伸ばし、責任感と積極的行動があり未来をつくる担い手として、治療、養育、教育することを運営の基本方針とする。</p>	
⑤施設の特徴的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で必要とされて、できた施設であり、地域の中で大切に育まれている場所であること。地域との交流は、施設の最も特徴とされることの1つである。 ・関係機関との連携が、よくなされていること。 ・気持ちのよい挨拶、内外の環境整備に力を入れていること。 	
⑥第三者評価の受審状況	
評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/7/14
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/11/25
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度

⑦総評

特に優れている点

■ 園長自ら地域貢献に努める姿勢と努力

園長は、町の子育て支援会議等に出席している他、福祉課に出向いて地域の現状や課題の把握に努めている。更に、地域の福祉ニーズを把握した結果として、“緊急一時保護事業”“デイケア（通所養護）事業”“ショートステイ（短期入所）事業”“父子家庭等児童夜間養護（トワイライトステイ）”などを地域の子育て支援となる事業を立ち上げている。

また、生活困窮者支援として、福祉事務所から依頼を受け食費の支援を行うと共に、当事者と町職員と園長等と一緒に一週間の食材の買い物に出掛けている。

園長自ら、地域貢献すべく積極的に福祉ニーズの把握に努め、公益的事業だけではなく、事業を立ち上げていることは、特筆すべき点である。

■ のびのびと成長するための地域と連携した多種多様な支援

小中学校では、地域で集まる“東ちゃん会”と称する保護者が集う会があり、草刈り作業には園の男性職員が子どもと一緒に参加し、地域の一員として交流している。また、職員が学校PTAの委員として参加している他、クラブ活動の話し合いにも参加している。

園の子ども対象に上五島水産普及センターが主となるお魚教室があり、魚の捌き方を学び、近くの海で釣ってきた魚を自分たちで捌いて献立に加えて楽しい食事となっている。

また、園の子どもが町の社会福祉協議会、県職員等大人に練習相手を依頼し、バレーボール交流試合を行っている他、園のバザーには地域住民が草刈りの奉仕に訪れたり、鯛ノ浦教会の信者がボランティアで関わっている。

更に、勤労感謝の日には、園の子どもたちが町長、役場、駐在所、消防署等にお礼の色紙と花束を持って行き、感謝の言葉を伝えている。

園には子どもの学校の友人が遊びに訪れ運動場で遊ぶこともある等、園長は、地域の一員として認識され子どもたちが応援してもらっていると感じることが多い。

園の子どもと地域の繋がりは多種多様であり、職員がサポートしながら交流を深めていることは、園の特長である。

■ 食事を通した子どもの養育支援

厨房職員は、「子どもの空腹を満たすことは、情緒の安定や幸福感に繋がる」と考え、美味しく栄養のある献立を立て提供に努めている。

食事は温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、クラブ活動で遅く帰園する子どもには温めなおし適温にて提供し、職員や子どもと一緒に居て会話しながら食事することで個食にならないよう配慮している。

厨房では、一人ひとりの子どもの好き嫌いを把握して、少しずつ提供し食べられるように工夫している他、残食チェックも行っている。食べ盛りの子どもが多く、お代わり用を準備して処遇職員が確認しながら提供している。

月に一回、洋食の日があり、フォークとナイフを使って食する献立は子どもたちに人気である。

誕生日は本人のリクエストを一品盛り込み、更にケーキを手作りし、クリスマスや正月など行事食を企画し、バイキング形式を取り入れている。

厨房職員が子どもの食事の重要性に鑑み、楽しく美味しい食事となるよう努めていることは、園の優れた点といえる。

改善が求められる点

■ 危機管理に関する体制整備

園では、防災とリスクマネジメント等を併合し、新たに危機管理委員会を設立している。

昨年度は、防災研修と総合避難訓練、不審者対策訓練を委員会で企画し実施している他、保護者の強引な引き取りについては、各ユニットで対応している。

ただし、防災とヒヤリハット等のリスクマネジメントの併合後、比重が防災に偏っており、子どもの命を守るために必要なリスクマネジメントについて更なる取組みが必要だと危機管理委員会委員長は考えている。今後の取組みに期待したい。

更に園では、「事業継続計画」（BCP）の策定はこれからであり、今後の取組みが望まれる。

■ 子どもの最善の利益のための更なる取組み

虐待防止委員会が年間を通して、被措置児童等虐待防止マニュアルを基に、子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見について確認を行う仕組みがある。職員会議では、就業規則の読み合わせの他、園長が子どもへの暴力など職員の不適切な関わりを防止する指導を徹底している。

ただし、子どもに対する不適切なかかわりがあった場合の対応方法を明示した就業規則等の規定がないため、今後の整備が待たれる。同様に、被措置児童等虐待防止マニュアルにおいても追記するなど、マニュアルの見直しも望まれる。

また、子どもが性について正しい知識が持てるよう、担当職員が話したり、中高生は男女に分かれて同性の職員が子どもからの質問に答える他、女子は助産師を講師に招くなどの学ぶ機会を設けており、現段階では年齢別に分かれた基本的な説明に留まっており、年齢ごとのプログラムを組んだ段階的な実施を予定している状況にある。

今後は、子どもが自分を守ることの大切さを知り、いのちと向き合うことができるよう、更なる取組みが待たれる。また、異性間のみならず、LGBTQ+、セクシュアリティ教育の実施も望まれる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度は、第三者評価を受けるにあたり、何度も来島していただきありがとうございました。前回の受審から早くも三年がたっており、改善されている部分とまだ足りていない部分を改めて確認することができました。特に、理念に関する項目では、大切に力を入れて取り組んでいる事柄と考えているため、職員も同じ思いでいてくれる、ということが何よりもうれしい事でした。

また、心理職、学習支援等、専門職の欠如は園としても大きな課題であり、この部分を早急に改善する必要があると改めて感じています。さらに、今年度採用した職員や年度途中の採用もあり、職員の心得等足並みをそろえる必要があると気付かされました。

今年、希望の灯学園は、創立140周年を迎えています。この記念する年に、大きな見直しができることは、本当にありがたい事であったと感謝しています。これからも、この学園が地域に愛される存在であり、何よりも、ここで生活する子どもたちの幸せの為に、これからもなお一層精進してまいりたいと思います。本当にありがとうございました。感謝のうちに・・・

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<p>理念と基本方針をホームページやパンフレットに記載している。園では近年パンフレットを新しく作成しており、“設立の趣旨”では創立者であるブレル神父の小さな命への奉仕が起源となることや、“沿革”から明治13年の創設から140年にわたる歴史の中に当施設の使命や役割を読み取ることができる。</p> <p>職員会議での理念の読み合わせの他、母体法人本部より講師を招き、理念や歴史の中にある当施設の使命や役割を基に園内研修や初任者研修などを設け、職員への周知を図っている。</p> <p>また、子どもへの周知方法として園長による理念が基となる講話の他、“園歌”を全員で創立記念日やクリスマス会などの行事で歌ったり、毎日の“お祈り”などが確認できる。</p> <p>園長は、「理念が一人一人を結ぶ核となる」との思いから理念を再確認する意識を高めており、それを基盤として職員が結束を強めながら養育・支援の実践に努めていることは高く評価できる。</p>		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<p>社会福祉事業全体の動向は、国や県の社会福祉協議会や児童養護施設協議会などからの情報を中心に得ている。</p> <p>地域の動向としては、園長が町の子育て支援会議等に出席している他、福祉課に出向いて地域の現状や課題の把握に努めている。定期的なコスト分析は事務職員が担当し、園長が確認している。</p> <p>ただし、町が策定する総合福祉計画の分析においては、広報誌の掲載箇所を読み取るに留まっている。</p> <p>今後は町が掲げる福祉計画において、初年度からの動向に着目し全体を把握するなど、的確な分析を深めていくことを期待したい。</p>		

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

園長は、例年2ヶ月毎の県内施設長会や年2回の法人施設長会に参加し、情報共有や経営課題を明確にする機会を得ていたが、今年度は新型コロナ禍により全て開催が中止となっている。
 その一方で、オンラインにより県から措置支援などの補助を受けている他、リモートによる大学講師とのケース会議や講義を開催しており、新たな経営体制を築いていることが確認できる。
 また経営課題として、職員の退職により資格職員や加算職員が欠員している現状にあるが、ハローワークや大学等に求人活動を行っており、具体的に対策を進めている段階である。

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

今年度は、全国の自治体で2029年度までの「社会的養育」の取組みを定めた推進計画である“新ビジョン”がスタートする年となっており、“高機能化及び多機能化・機能転換、小規模かつ地域分散化に向けた計画案”の中で、2020年度から2024年度までと、2024年度から2029年度までの2段階に分けた10年間の小規模グループホーム配置計画がある。当園もこの取組みに向けて計画を策定している。
 園長は、職員会議で「多機能化に向けて園でできること」について職員アンケートを取り意見を参考にすると、職員の声を汲み取りながら、経営課題を明確に伝え、解決・改善に向けて取り組んでいることが見てとれる。
 現段階では、新型コロナ禍や職員の人材不足などの課題により、足踏み状態となっている。
 今後は、県担当課の指導の下、見直しを行いながら進めていくこととしている。更なる取組みに期待したい。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

今年度初めに立てた事業計画書は中・長期計画を反映しておらず、来年度からの運動に期待したい。
 単年度事業計画は、単なる行事計画ではなく実行可能な具体的な内容であることが確認できる。
 今後は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価も行える内容となることが望まれる。
 また、中・長期計画は理事会に報告する予定であることから、今後の更なる検討、見直しに期待したい。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】		
<p>単年度の事業計画では、職員は主に行事計画の作成に参画し、行事食などは調理担当の職員の声を反映している。</p> <p>また、園長は“職員の職務に関する振り返りアンケート”を実施し、その中の意見などを取り入れながら、職務分担表の作成にも繋げている。</p> <p>事業計画の策定は12月からスタートして2月に完成し、実績報告書は5月に完成し理事会に提出しており、定められた時期や手順に基づいて1、2月に事業計画の評価・見直しを行っていることが確認できる。</p>		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】		
<p>子どもや保護者に向けて、事業計画そのものを説明する機会には現状では設けていない。</p> <p>今後は子どもや保護者等に向けて、事業計画の中で周知、理解を促す必要がある計画については説明等実施していくことが望まれる。</p>		

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○
【コメント】		
<p>職員全体の質の向上に向けて、園長が着任時より各ユニットリーダーによる“リーダー会議”を提案し、同じ立場での悩みを打ち明け、励まし合える機会を築いている。会議には主任が同席し、園長も必要時には参加することもある。</p> <p>職員は、年度初めに個人目標を定め、年度末にはその目標に対する振り返りを実施している。</p> <p>大学教授のスーパービジョンを受けることにより、自身が抱える問題の解決へと繋がり、表情が明るくなった例もある他、“人権擁護のためのチェックリスト”により客観的に自己を振り返るなど、養育・支援の質の向上に向け取り組んでいる。</p> <p>前回の第三者評価後、毎年度着実に自己評価を実施し、主任が集計し園長が評価を行っており、評価結果を園として分析・検討する場を位置付け、組織的に実行していることが確認できる。</p>		

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○
【コメント】		
<p>園長は、以前の第三者評価後に「取組みの文書化が不十分だったことに気づくことができた」として、直ぐに全職員でグループを作り担当を振り分け、支援の土台となるマニュアル作成に取り組んでいる。</p> <p>また、以前はマニュアル委員会のみだったが、他3種の委員会を立ち上げ職員全体で更に意識を高め、取組みを強化していることが見てとれる。</p> <p>このように評価結果に基づき組織としての課題を明確化し、改善策を迅速に実施していることは高く評価できる。</p>		

Ⅱ 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○
【コメント】		
<p>園長は職務分担表で自らの役割を明確に明文化している。</p> <p>年度始めに全職員に向けて、職務分担表を基に各ユニットのリーダー等役員の説明を行い、新体制を始動している。</p> <p>年1回発送している機関誌“つばさ”の他、バザーやクリスマス会の行事案内などで園長のことばを掲載して、自らの思いや考えを表明している。</p> <p>園長不在時の権限委任に関しては、主任がその役割と責任を担っている。また、園長・主任、二人の不在時は、ユニットリーダーと事務職員が務め、災害においては危機管理委員会委員長がユニットリーダーと連携を取り、対応に当たるなど役割と責任を明確化していることが確認できる。</p>		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○
【コメント】		
<p>法人の経理規程に沿って、一定額以上は相見積りを取るなど取引事業者との適正な関係を保持している。</p> <p>園長は全国養護施設協議会などの情報を得て、職員と共に遵守すべき法令等を正しく理解するように努めている。</p> <p>今年度は新型コロナ禍によりオンライン申請を実施するなど、パソコンによるネット環境設備を新たに整備している。</p> <p>職員会議では就業規則を1項目ごと読み合わせを行い、正しく把握・認識できるよう取り組んでいる。</p> <p>また、社会保険労務士が来島した際は、園長が勉強会に参加している他、日頃から社会保険労務士に相談できる体制を整えるなど、法令順守の徹底に向けた体制の構築を図っていることがわかる。</p>		

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園長は着任後“職員組織図”を作成し、組織体制を明確化することで体制の強化を図っている。また、昨年パンフレットを新しく作成しており、温かみのあるイラストや写真などを用いて園の特性を織り込んだ内容であることが窺える。

月初めは、全ユニットが提出する前月分の育成記録を主任がまとめた後に園長が評価・指導を行い、朝礼や職員会議では子どもの処遇について状況把握に努めながら、職員からの個別相談にも対応するなど、園長としての役職に徹していることが見てとれる。

また園長は、日頃から意識的に新聞記事や雑誌など情報入手に努め自己研鑽に励んでいる他、園内研修やケース会議にも積極的に参加し、各委員会には議題の提案も行っており、養育・支援の質の向上に意欲をもち園長としてのリーダーシップを発揮していることは特筆すべき点である。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

園長は着任3年目となる今年度、ユニットの再編を目的とした上で、各ユニットのリーダーを変更している他、年に2回実施する個人面接では、事前アンケートを取り職員の声を経営改善に反映できるよう工夫を行っている。

定期的に会計事務所や社会保険労務士事務所による管理・指導、法人本部とも連携を取りながら園の経営の改善に努めている。

また、今年度は新型コロナ禍によりICTの導入を進めており、オンラインによるケース会議等が可能なネット環境の整備や、各ユニットにWi-Fi通信によるタブレットを配置し、学校との連絡や保護者とのテレビ電話などを実施している。

このような、園長の経営の改善に向けた実効性のある取組みは、特筆すべき点である。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
園では、現在、心理士と厨房職員が不足しており、純心大学や専門学校その他、ハローワークにも求人を出している。更に大学の就職担当の教員に上五島就職を希望する学生がいなか電話で尋ねるなど積極的に人材確保に向けて取り組んでいる。 実習生にも声掛けしているものの、確保に繋がっていないのが現状であるが、今秋、県外から就職希望があり、処遇職員として採用予定である。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
【コメント】		
「期待する職員像」は、冊子“共に生きる”の勤務必携に“職員は”として3項目を挙げており、会議で唱和している。 人事基準は就業規則に記しており、職員室に設置して職員がいつでも確認できるよう配慮している他、職員会議で就業規則を読み上げた後、園長が説明し職員からの質問を受け付ける時間を設けている。 職員会議では、園長が把握した賞賛すべき職員の専門性の高い支援の力を伝えている。		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

労務管理責任者は、園長である。
 職員の有給休暇取得状況を確認し、状況によっては個別に声掛けし取得するよう促している。
 勤務シフトの作成は、前もって各職員が希望する休日を申請しており、小規模ユニットや厨房は各リーダーが、ホームユニットは主任が作成し、各ユニットリーダーに確認を取っている。
 小規模ユニットの宿直は専門職員がおり、公休の時は職員や主任が担当している。
 職員のメンタル面については、心理の大学教授に直接相談している。昨年度は3人の心理専門の大学教授が訪れており、職員が希望の教授にスーパーバイザーを依頼することができ、今年度は新型コロナ禍のために電話やメールを利用して依頼している。
 福利厚生は年度初めに会費を集めており、慶弔費に宛てたり、卒園生の成人式にはお祝いを送っている。また、園長は職員に福利厚生に関する希望のアンケートを取り、希望を反映して4グループに分けて町内での食事会を企画し実行している。
 職員の家庭環境に合わせて介護休暇を取得した職員もいるなど、働き続けることができる職場環境となるよう取り組んでいることが見てとれる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

園では年2回、園長は職員の個人面談を行っている。
 職員は、面談前にアンケートを提出しており、1年間の振り返りと次年度に向けて資格取得や受講したい研修などを記している。
 園長は、面談にて希望を聴取し実現するために支援すると共に、職員別に3年間の研修計画を立てている。新型コロナ禍にて今年度の研修受講は困難であるが、次年度に向けて計画を推進する予定である。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「期待する職員像」は、冊子「共に生きる」の勤務必携に“職員は”として3項目を挙げている。初任者向けの内部研修計画を立てて実施している。
 また、職員毎に3年間の研修計画を策定していることが確認できる。研修受講後、職員は職員会議にて受講内容をフィードバックすると共に支援に活かしている。
 園長は、研修内容を精査し、次年度の研修計画に反映している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

園長は、各職員の専門資格等を把握しており、階層別、専門職種別、テーマ別と適した職員が受講できるよう計画している。内部研修だけでなく、外部研修を受講することで、本人の専門性を高めることに役立てている。
 初任者向けの内部研修計画を立てて実施すると共に初任者が処遇職員の場合は現場に入るため、経験のある職員が指導し、その日のうちに振り返っており、個別的なOJTを行っていることが見てとれる。
 スーパービジョンについては、現在心理士が居ないため、外部の心理専門の大学教授を確保し、いつでも相談できる体制を整えている。
 園長が職員一人ひとりの教育・研修の機会を確保し育成に努めていることは特筆すべき点である。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

実習生を受け入れる基本姿勢は、実習生受け入れに関するマニュアルの冒頭に記している。
 学校からのプログラムを活用して実習を行っており、学校教員の訪問があった際は担当職員が対応している。
 純心大学が開催する「実習指導者研修」があり、担当職員が出席していることが確認できる。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
<p>① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>ホームページは、昨年度新規に作成しており、園の内容を分かりやすく掲載している。地域における家庭養育支援事業も種類別に記している他、苦情解決公表も確認できる。また、財務諸表はワムネットにリンクし閲覧できる仕組みがある。</p> <p>昨年刷新したパンフレットは、イラストや挿絵が入り親しみやすいつくりである。パンフレットは、役場に設置するように依頼し渡している。</p> <p>更に、今年度、園は創設140年を迎えるため、園の広報誌“つばさ”の中に特集を組むように企画している。</p> <p>今年度のバザーは新型コロナ禍で中止となったが、以前は教会でミサをあげ、子どもたちが紅白の餅を配っているなど地域に向けての活動が見てとれる。</p> <p>このように運営の透明性を確保するために適切に情報公開し、地域と繋がっていることは園の特長である。</p>	
<p>② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>学園では、園長、書記、主任、職員が職務分掌に沿って、権限と責任を明確にしルールに則り職務を遂行している。</p> <p>会計に関しては会計事務所、労務に関しては社会保険労務士事務所と契約しており、適宜指導を仰ぎ適切な運営に努めている。</p> <p>法人における内部監査もある他、理事会、評議委員会にて園の現状を報告すると共に意見や助言等を得て、公正かつ透明性の高い運営に努めている。</p>	

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="radio"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<p>地域との関わり方については、事業計画書やパンフレットに掲載している。</p> <p>小中学校では、地域で集まる“東ちゃん会”と称する保護者が集う会があり、園から職員が参加している。“東ちゃん会”では草刈りもあり、園の男性職員が子どもと一緒に参加して作業し、地域と交流している。また、職員が学校PTAの委員として参加している他、クラブ活動の話し合いにも参加している。</p> <p>園のバザーに地域住民が草刈りの奉仕に訪れたり、上五島水産普及センターが主となるお魚教室に参加し、魚の捌き方を学び近くの海で釣ってきた魚を捌いて献立に活かしている。</p> <p>また、園の子どもが大人に練習相手をお願いして、町の社会福祉協議会、県職員等とのバレーボール交流試合を行っている他、園のバザーでは、鯛ノ浦教会の信者がボランティアで関わっている。</p> <p>勤労感謝の日には園の子どもたちが、町長、役場、駐在所、消防署等にお礼の色紙と花束を持って行き、感謝の言葉を伝えている。園長は、こうしたさまざまな活動から園が認識され、子どもたちが応援してもらっていると感ずることが多い。</p> <p>子どもの学校の友人が園に遊びに来ており、運動場で遊ぶことも多い。このように子どもと地域の繋がりは多種多様であり、職員がサポートしながら交流を深めていることは、園の特長である。</p>		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<p>年間を通して、園では漁業組合のお魚教室、山登り、草刈りなどさまざまなボランティアを受入れている。ただし、園ではボランティア受入れマニュアルは整備していない。</p> <p>小中高の新任教員の研修について、町の教育委員会から依頼があり、毎年度初任者研修を受け入れていることも記録から確認できる。</p>		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<p>園には民生委員が25人見学に訪れており、園長が見学の中で施設の概要を説明している。これはほぼ毎年行われており、他にも地区別での民生委員の訪問もある。また、園のバザーに地域の民生委員がボランティアで参加している。</p> <p>園には、茶道、書道、ピアノなど島内の講師が訪れており、ピアノは地域の子どもも一緒に習っている。</p> <p>昨年は県の家庭支援専門相談員の研修会場として園を提供しており、県内から大勢での訪問があるなど、関係機関や団体と連携していることがわかる。</p>		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
【コメント】		
<p>園長は、町の子育て支援会議等に出席している他、福祉課に出向いて地域の現状や課題の把握に努めている。更に、地域の福祉ニーズを把握した結果として、“緊急一時保護事業”“デイケア(通所養護)事業”“ショートステイ(短期入所)事業”“父子家庭等児童夜間養護(トワイライトステイ)”など、地域の子育て支援として事業を立ち上げている。園長自ら、積極的に福祉ニーズの把握に努め、事業を立ち上げていることは、特筆すべき点である。</p>		
②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○
【コメント】		
<p>生活困窮者支援について、福祉事務所からの依頼を受け、食費の支援を行っている。更に、当事者と町職員と園長又は事務職員と一緒に一週間の食材の買い物に出掛けている。園では、毎年敬老の日に子どもと職員が一人住まいの高齢者宅を訪問し、手作りのカードや小物、お茶菓子などを持参し、会話している。新型コロナ禍の今年はメッセージカードとマスクを郵送している。まちづくりへの貢献として、町のくじら祭りでは、そこに子どもと一緒に出掛けている他、教会のクリスマスミサ、地区の敬老会などには、子どもたちがハンドベルを披露している。また、園長と書記が町担当課に出掛け、園として何か地域福祉に協力、貢献できることはないか問い掛け、子育て支援や一時預かりなど実施することを決定しており、地域の福祉ニーズに合わせて園ができることを積極的に行っていることは、優れた点である。</p>		

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【コメント】		
<p>園の理念や基本方針に沿って、園長を主軸に職員全体で職員会議や朝礼において、子どもを尊重した養育・支援の実施について共通理解に努めている。職員一人ひとりが、児童憲章や職員の心得10か条などを綴ったファイルや「共に生きる」ファイルなどを所持している他、「人権擁護のチェックリスト」を実施し定期的に基本姿勢の把握・評価に取り組んでいる。毎月1回のホームミーティングや子ども会では担当の職員が、権利擁護に関連した話を子どもたちに伝えている他、園内研修でも権利擁護に関する勉強会を設けている。</p>		

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

子どものプライバシーが守れるよう、高校生は優先して個室を使用している他、2人部屋では木製家具を仕切りとして利用し、個々のスペースを確保できるよう工夫している。被措置児童等虐待対応マニュアルや職員の心得10か条の読み合わせの他、日頃より園長が子どものプライバシー保護について朝礼や職員会議、園内研修など様々な場面で職員に伝えており、職員としての姿勢・責務等の意識付けに尽力している。

社会保険労務士を講師に迎え、園内研修で就業規則の勉強会を開き、守秘義務や個人情報の取り扱いを含めプライバシー保護への配慮についても学ぶ機会も設けている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

園の理念や基本方針、特性等をホームページやパンフレットなどに掲載し情報を提供している。園長は、地域住民に園のことを知ってもらうことも重要と捉えており、地域行事や園内行事において地域住民との交流を広げている。

離島であることや家庭状況の問題などから、入所前に子どもや保護者等に面談する機会はなく、概ね児童相談所を通して入所している。中には、ホームページからカトリック系・島の施設を希望する保護者からの問い合わせが入ることもある。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

子どもや保護者が意思疎通が難しく入所開始の説明が困難な場合は、福祉事務所の家庭相談員が同行し仲介役を担っている。その他、精神疾患等意思決定が困難な保護者には保健師が関わり説明している。

養育・支援の開始やその後の過程における説明と同意にあたっては、自己決定を尊重しており、子ども自らが児童票などの記入も行っている。ただし、その内容を書面では残していないため、今後子どもや保護者への説明内容を具体的に記録として書面で残していくことが望まれる。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

措置変更、家庭への移行となる場合は、児童相談所を介して面会等の対応を行っている。園長が児童相談所のケースワーカーと連絡を重ね、子どもが家庭復帰した後も家庭訪問を依頼するなど養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。
 他の施設への移行の際は、児童相談所に問題行動の一例の書類や持ち物リストを送っている。
 退所後は、主に担当職員が継続して支援し、園の固定電話は園長が受けており、子どもや保護者等が相談可能な体制を整えていることが確認できる。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

職員は常に子どもの声を聴くよう、強制することが無いよう心掛けており、女子ユニットでは、希望する子どもと一緒に菓子作りを行い、家庭的雰囲気の中で明るく言葉を交わしながら支援している。直近では、魚釣りや海水浴など子どもたちが企画し外出を楽しんでいる。
 食育委員会では嗜好調査を実施している他、日程表では平日に対して休日は起床・消灯時間等にゆとりを設け、自由時間も確保するなど、子どもの満足の向上を目的とする仕組みを構築している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の責任者は園長、受付責任者担当は主任と定めている他、第三者委員2名を選出している。
 苦情解決の組織図“第三者委員のお知らせ”を玄関窓口に掲示し、本館や各ユニットに意見箱を設置している。
 苦情の有無はホームページに掲載し公表している。
 年度初めに、子ども会において全員に意見箱の利用方法を説明すると共に、途中入所の場合もその都度説明しており、苦情解決の体制を整備していることが見てとれる。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

園では年度初めに、子ども会において全員に困っていること、疑問に思うこと、こうして欲しいと思うことについて意見箱を利用するように伝えている。
各所に“困っている人はいませんか？”と題した意見箱の説明書を掲示している。文字を大きく、漢字には振り仮名を付けてイラストを加えるなど、子どもにわかりやすいような工夫が読み取れる。また、相談したい人が担当の職員以外の場合も相談の場を持つことが出来ることも伝えている。
職員は相談を受ける際、一人部屋の子どもの自室で行い、宿直時リビングでゆっくりとお茶を飲みながら話を聞いたりしている他、休日に他の子どもたちが外出している時間を利用したり、暗い話にならないよう夜間を避け昼間に行うなど、相談しやすい場所や時間に配慮しながら適切に支援していることが確認できる。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

毎月1回、各ユニットの子どものリーダーが子ども会を開き、子ども会ノートに記録を収めながら意見を集約する仕組みがある。その場で出た相談や意見に対して、直ぐに答えられない場合は職員会議で話し合い、後日返答しており組織的な仕組みを整えていることが確認できる。
子ども会では、ゴミの散乱や危険箇所の報告等があり、その声に基づき園全体で生活改善に向け着手した事例がある。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

園では、防災とリスクマネジメント等を併合し、新たに危機管理委員会を設立している。
リスクマネジメント対策として、各ユニットでヒヤリハット収集し、毎月の職員会議で事例を検討している。事例を参考にして、外遊びでは子どもに怪我や事故がないよう気を付けるよう伝えている。
昨年度は、防災研修と総合避難訓練、不審者対策訓練を委員会で開催し実施している他、保護者の強引な引き取りについては、各ユニットで対応している。また、不審者発生の際は学校から届き、警察が巡回している。
園で整備している事故防止・防災マニュアルには、魚釣りについての注意すべき項目があり、園の地域特性が見てとれる。
防災とヒヤリハット等のリスクマネジメントの併合後、比重が防災に偏っており、子どもの命を守るために必要なリスクマネジメントについて更なる取組が必要だと危機管理委員会委員長は考えている。今後の取組に期待したい。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、非接触型体温計を設置しており、子どもたちにも検温や手洗い、うがいを促している。学校でも検温表があり、子どもたちは毎朝検温し記録して学校に提出している。本館玄関には非接触式検知器と消毒液を、ユニット入り口付近には消毒液と手作り布マスクを設置している他、子どもが部活動で諫早や福岡への遠征後、感染防止のためブレル館で1週間過ごすなど感染予防について徹底した対策を講じていることが確認できる。
また、長崎県社会福祉協議会主催の感染症予防研修会に出席して新しい情報を得ている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

土砂災害指定地域となっているため危険箇所を把握し、台風等の大雨や集中豪雨、地震などこまめに情報を確認して有事に備えている。
土砂災害については、消防署の協力を得て園内研修を実施している他、不審者対応については駐在所の協力を得て訓練を実施している。更に、本館の玄関に防犯用品のさすまたを備えており対策を講じていることが確認できる。
また、ガレージ周りブロック塀設置工事や防犯灯の購入の記載が事業報告書から見てとれる。
今年度9月の台風接近時には一時停電したものの早期に復旧しており、被害はなかったが職員は子どもたちが安心できるように泊まり込んでいる。
また、毎月11日を非常食の日として備蓄しているレトルト食品や缶詰などを消費期限が迫っているものを使用している。
園では、「事業継続計画」(BCP)の策定はこれからであり、今後の取組みが望まれる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

園では、養育・支援についての各種マニュアルを各ユニットに設置している。必要なマニュアルは職員間で共有し、ミーティングの前には読み合わせるなど浸透するための工夫が見てとれる。
園長は、養育・支援にかかるマニュアル整備の重要性を職員に説くと共にマニュアルに基づく養育・支援となっているか確認している。
ただし、子どもの尊重や権利擁護、プライバシー保護の視点での記述は確認できないため、今後の更なる取組みに期待したい。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

園では、各種マニュアルを毎年2回見直すと共に危機管理委員会、虐待防止委員会では該当するマニュアルをこまめに検証し、見直している。
 マニュアルの見直しにあたっては、各委員会のメンバーから追記すべき項目や更に深めて検討すべき項目などが上がっているため、今後の更なる取組みが望まれる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

新しく入所する子どもの情報は、児童相談所から園長が聞き取り、ユニットリーダーに知らせている。その後、厨房職員も参加し、ミーティングを行っている。入所時には、園長、主任、リーダーが面談し受け入れており、事前に本人を受け入れるための準備を始め、受入れファイルを作成しており、足のサイズ、身長、持参した荷物などを記入している。入所時は暫定的に自立支援計画を立て、入所後一定期間を経てアセスメントを見直している。
 子ども本人が作成する手書きの自立支援計画には、自分の思いや今年度の目標などがあり、職員は本人の計画を把握し話し合いながら進めている。更に個別の自立支援計画策定はアレルギー疾患等の情報も含め、厨房職員やユニット担当職員など部門を横断したメンバーにて協議している。
 支援困難ケースは、本人が理解できる課題を提示し目標とするなど工夫している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は本人と一緒に考えながら作成している。長期3年、中期1年、短期3ヶ月を基本として作成しており、計画は毎月のミーティング時に見直し、日々の支援内容と照合し検討している。
 中期計画の見直しは年度末であり、一年間の評価及び取組み状況から来年度に向けた課題、目標を立てる流れである。
 高校生は卒業するまでの計画となるため、本人と個別に話し合って作成したものを評価・見直している。
 更に、子どもの成長に伴い、気になることは迅速に現場で協議し、次の職員会議で話し合い、職員間では引継ぎノートを用いて、詳細に記して情報を共有している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各ユニットにパソコンを設置しており、基本的に統一の記録様式を用いて入力している。パソコンでの記録が苦手な職員は手書きである。記録の要領はマニュアル整備しており、更にユニットリーダーが指導している。毎月の児童記録は各ユニットから主任に提出し、その後園長が確認しており、児童記録の書き方や要点などを口頭や付箋にて指導している。
今夏、園内にネット環境を整備し各ユニットにタブレットを配置し、新型コロナ禍でリモートでの業務が可能な環境を整えている。Wi-Fi環境を整備したことで、職員室のパソコンは児童相談所や研修会の講師とのやり取り、各ユニットの担当職員が学校とクラブ活動等の連絡等に活用していることは園の優れた点といえる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

園では文書管理規定に則り、文書を管理している。記録管理責任者は園長であり、職員に向けて個人情報の取り扱いについて注意喚起を行っている。
また、社会保険労務士を講師に迎え、就業規則について研修を行い個人情報保護の意識向上に繋げている。
園の各種記録は、職員がUSBメモリにて保存管理しているものの、管理方法等のルールが不明確であるため、個人情報保護の観点からルールを作り、全職員に周知徹底することが望まれる。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>園では朝礼や毎月の職員会議で、園長による権利擁護についての講話したり指導し、児童憲章等も読み合わせるなど職員の理解を図っている。</p> <p>園内研修では権利擁護について、県こども家庭課による講話している他、定期的に大学教授を招き講義やケース会議を開くなど、権利擁護や権利侵害の防止等への意識と理解を高め、対応方法を周知徹底している。</p> <p>職員は“人権擁護のチェックリスト”により、職員自らの行動の振り返りを行っている。また、園全体の結果を分析し、職員の意識の違いやストレス等の課題を把握し改善に繋げている。</p> <p>宗教の制限をせず、お祈りについても強制することなく、心身の成長の上で自分自身と向き合うための精神の教えであると位置づけており、子どもや保護者の思想を大切にしている。</p> <p>以上のことから、子どもの権利擁護に関する取組みが徹底されており、高く評価できる。</p>	
<p>(2) 権利について理解を促す取組</p> <p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>園の全ての子どもは年齢に合わせた権利ノートを用いて、生活の中で保障されるさまざまな権利について学んでいる。</p> <p>子どもに自他の権利について正しい理解を促す機会として、“子ども会権利擁護に関する年間計画”を立て、毎月ホームミーティング・子どもリーダー会において“思いやり、いのちの尊さ”などテーマごとに担当職員が話している。年3回は子ども会・全体会の中で、園長が“権利、命の尊厳、安心・安全な生活”について伝えている。</p> <p>日々の生活の中でも、職員は真摯な姿勢で子どもと向き合いながら、一人ひとりが大切な存在であるといった、自他の権利について話している。</p> <p>ただし、職員の子どもの権利に関する学習機会が十分に取れていないため、年度当初の研修計画にて予定するなど更なる取組みが望まれる。</p>	

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもに事実を伝える際は、年齢や発達状況に配慮し、伝えるタイミングや内容など慎重に検討した上で対応している。
 子どもの方から聞きたいとの申し出を受けた際は、ユニットリーダー、主任、園長が検討を行い、児童相談所へ確認し判断している。伝えた内容や時期は育成記録に記載し、事実を伝えた後の子どもの心のケアに努めている。
 行事ごとに職員が写真を撮り、その中から本人が選んでアルバムを制作しており、職員と一緒に成長の過程を振り返りながら子どもの生き立ちの整理に取り組んでいることが確認できる。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

虐待防止委員会が年間を通して、被措置児童等虐待防止マニュアルを基に、子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見について確認を行う仕組みがある。職員の気になる言動があった際は、ユニットリーダーから主任、園長へ報告する体制を整えている。意見箱を設置し、子どもからの訴えにも組織的な対応を図るとともに、サインを見逃さないよう留意している。
 職員会議では、就業規則の読み合わせの他、園長が子どもへの暴力など職員の不適切な関わりを防止する指導を徹底している。ただし、子どもに対する不適切なかかわりがあった場合の対応方法を明示した就業規則等の規定が確認できない。今後の整備が待たれる。同様に、被措置児童等虐待防止マニュアルにおいても追記するなど、マニュアルの見直しも望まれる。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

食事の際、子どもが進んで配膳や片付けなどを手伝う姿が見られたり、職員の体調を気づかうなど、職員と子どもが互いに助け合いながら共生の意識を持って生活している。

月1回のホームミーティングや子どもリーダー会などでは、子どもが主体的に自分たちの生活課題について検討している他、ユニットだけの解決事例もあり、その際は必ず園長に報告するなど定期的に話し合いの機会を設けていることが見てとれる。

日課表では、土日はゆとりある時間を設けており、子ども一人ひとりが思い思いに過ごせるように支援している。

園で取り組むクラブ活動や習い事では、子どもの希望を取りながら毎年更新している。イラストが得意な子どもには、職員が挿絵を依頼するなど得意分野を引き出せるような工夫を行っている。

中高生は毎月お小遣い帳をつけ計画的な使い方を学びながら、金銭感覚や経済観念を習得しており、生活全般について子ども自身が主体的に取り組んでいることは、優れている点といえる。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

子どもを迎え入れる際は、職員が事前に足のサイズを確認してスリッパを用意したり、箸置きなどの生活用品やウェルカムボードを準備するなど、温かく迎えることができるように工夫を行っていることが見てとれる。また、魚釣りなど一緒に外出し、自然の空気に触れながら互いの距離を縮めることができるように交流を図っている。

家庭復帰や施設変更に当たっては、子どもや保護者の状況把握に努め、園長が児童相談所と密に連絡を取りながら慎重に進めている。

これらの移行期において、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、職員が子どもの不安軽減を図りながら出来る限りの取組みを行っていることは、園の強みといえる。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

高校を卒業する生徒を対象に、退所後の生活に向けて1週間、1人暮らしを体験するプログラムがある。園の敷地内にある別館“ブレル館”や分園型グループホーム“カナの家”内にあるアパートの1室などを利用しており、積極的なリービングケアの取組みが確認できる。

退所後は担当の職員が継続して支援を行うことや、園の固定電話では園長が常時相談窓口として応じることを本人に伝えている。職員は出張時に連絡を取り、本人と面会し近況報告等確認している他、就職先でのトラブルなど職場から連絡が入った際は、職場へ出向いたり、自宅を訪問し事情を聞くなどの対応を行っている。

また、退所者からの相談が個人的相談に留まることなく、担当以外の職員全員で共有しながら組織としてアフターケアの体制を整えている。

島内に在住する卒園生もいるが概ね島外が多く、ゴールデンウィーク、お盆や正月など本館2階の空き部屋や別館などで宿泊による里帰りも支援している。また、卒園1年目の「こどもの日」には手紙とパウンドケーキや五島うどんなどの贈り物を発送している他、成人式では可能な限りお祝いを行っており、子どもの安定した生活に向けたアフターケアへの取組みは園の特長といえる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

園には思春期の子どもたちが多く、職員間で他の子どもから離れた方がいいと判断した場合はドライブに誘い出掛けたり、居室の階を変更するなど配慮し、本人の話を聞いている。

子どもによっては、感情を表出することが苦手な子もおり、絵で表現したり、料理に興味を示すことなどがあり、職員は本人のサインを見逃さないように支援に繋げている。興味を持っていることについての会話から家庭の話が出ることもあるため、貴重な機会と捉え傾聴している。

学校で問題を起こした際は、担当職員が学校に出向き詳細を尋ねて、帰宅後にしっかりと理由を聞いて叱責することなく、対応方法をアドバイスするなど支援している。

園長・職員は子どもの心理的課題等の把握に努め、感情を受け止め支援していることは園の優れた点である。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

園内の各居室及びホールの温度調整は、子どもたちの要望に応じている。起床時は、窓を開けて風を通し気持ちよく目覚めるよう配慮しながら声掛けしている他、就寝時は無理強いすることなく、時間を見ながら柔軟に対応している。

消灯前の耳かきや皮膚科処方の塗り薬を塗布するなど、子どもが安心して眠れるように支援すると共に、夜間に子どもが目覚めた時に大人の存在が感じられるよう、宿直者は子どもが安心感を得ることができるよう努めている。

居室は真っ暗にすることはなく少し灯りをつけている。

園では生活の決まりごとはあるものの、子ども一人ひとりの基本的欲求を満たし、安心して暮らせるよう全職員が配慮していることが確認でき、園の特長と言える。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもは学校の成績表を職員に渡し、園長が確認している。成績が上がった時は、園長や職員は褒めて本人の自信に繋げている。

失敗した時は、子どもの様子をしっかりと観察し、職員が近寄っていい状況になってから、声掛けしながら話を聞き、職員も一緒に共感し、励ましている。

職員は、まずは、しなければならないことをしないときは叱り、その後なぜしなければならないかを説明している。更に、本人の良いところを認めて褒めている。

職員はチームワークよく、叱る役、受け止める役など子どもの気持ちに寄り添いつつ、育ちに繋げている。

各ホーム朝7時出勤の職員が現れるまで、宿直者が朝の起床や朝食、体温チェック、学校に出すべき文書の確認など子どもが登校するまで支援している他、忘れ物がないように、前日に声掛けしている。

子どもを信じ、時には叱り、時には褒めて本人の自己肯定感を重視した支援は、園の特筆すべき点である。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

園では、小学生向けに公文のドリルを使用して、登降前の時間で学習する習慣があり、職員が付いて指導している。また、図書室を備え、各機関からの寄贈もあり、小学生から高校生まで年代に合わせた図書を揃えている。子どもの根強いニーズとして、携帯電話所持があるが、所持できない子どもへの配慮及び学校の決まりであることと伝え説明している。今年度、高校生には携帯電話会社から携帯電話の無償貸与があり、ルールを守って使用するよう指導している。

広い運動場では、サッカーや野球、体育館ではバスケットボールなど子どもの遊びや学びの場がある他、近隣は魚釣りができる環境があり、男女を問わず子どもたちの楽しみとなっている。

更に、ピアノ教室や茶道、書道の先生が定期的に訪れており、子どもの学びを保障するための環境も整え活用しているなど、多種多様な子どもの発達に応じた学びや遊びの環境は、本園の特長である。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員は箸の持ち方など食事のマナーを教えており、毎月洋食の日を設けフォークやナイフの使い方に慣れるように工夫している。挨拶や言葉遣いはその都度注意している。子どもと職員が、一緒にテレビ鑑賞し団欒する時間もあり、テレビ番組を通して社会常識や社会規範を知る機会となっている。子どもたちは自分が観たいテレビ番組の時間が重なると互いに譲り合って鑑賞している。

今年度、携帯電話会社の好意で、高校生以上が携帯電話を所持している。その使い方やルール、マナーなどを学び、現在使用している。

地域住民とは日頃から交流し、挨拶だけでなく一緒に作業する中で社会性を習得しており、園では地域と共に子どもを育成していると考えていることが見てとれる。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですることができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

厨房職員は、「子どもの空腹を満たすことは、情緒の安定や幸福感に繋がる」と考え、調理に努めている。園には厨房職員と処遇職員と子どもが参加するミニトマトクラブがあり、園の畑で野菜を栽培し献立に入れている。

児童養護施設の食育に関する外部研修に担当職員が出席しており、食育委員会は、畑を管理している職員が講師になり講話したり、保健所職員に外部講師に依頼している。今年度は、各ユニットを厨房職員が廻ってクイズを盛り込み講話し、楽しい時間となっていることが子どもたちの感想文から窺える。

食事は温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供しクラブ活動で遅く帰園する子どもには温めなおし適温にて提供し、職員や子どもと一緒に居て会話しながら食事することで個食にならないよう配慮している。

厨房では、一人ひとりの子どもの好き嫌いは把握して、少しずつ提供し食べられるように工夫している他、残食チェックも行っている。食べ盛りの子どもの多く、お代わり用を準備して処遇職員が確認しながら提供している。

アレルギーの疑いのある子どもは、再度アレルギーチェックを行い、確認して配慮すると共に学校にも報告している。小規模ユニットには、厨房職員が付箋やマーカーで注意書きして別メニューを提供している。

誕生日は本人のリクエストを一品盛り込み、更にケーキを手作りしており、本人の喜びに繋がっている。

クリスマスや正月など行事食を企画し、バイキング形式を取り入れている。

厨房職員は子どもの食事の重要性に鑑み、楽しく美味しい食事となるよう努めていることは、園の優れた点といえる。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園では、子どもの成長に合わせ衣服を揃えている。職員は毎日洗濯し、アイロンを掛け、補修するなど子どもが清潔で快適に過ごせるよう配慮し、年齢に合わせて教えている。

子どもたちは、自身で衣服を選択し購入する機会があり、職員と一緒に掛けて購入している他、衣服の柔軟剤など個人で購入し好みの香りを楽しんでいる。

季節の衣替えは子どもと職員が一緒に行い、季節に合った衣類を揃えて整理整頓の方法を学ぶ機会となっている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園内の設備や什器の破損個所は、職員がチェックし当事者に理由を聞き園長にお詫びして、修理している。
 職員による毎日の清掃により、居室など園全体において掃除が行き届いている。職員は日頃から子どもに居室等の整理整頓や休日の掃除などを習慣づけるよう促している。
 園内の随所に花や絵画を飾っている他、ぬいぐるみや動物の絵柄がある暖簾、ソファカバーなど子どもに親しみのある居心地の良い環境を作っている。
 食堂やリビングなどの共有スペースは、テーブルやソファの他、テレビや雑誌、漫画などがあり明るく会話を交わしながら家庭的な雰囲気の中で寛げる空間となっている。小規模グループホームや女子ユニットでは個性豊かなランチマットを使用している他、柔軟剤やシャンプーなどを個人所有している。高校生は優先的に個室で生活しており、相部屋では木製家具を仕切りとして利用し、個人の空間を確保している。
 ユニットごとにマリア像の前でお祈りを行うことが習慣となっており、理念であるカトリックの愛の精神に基づいた“祈る心”を育み、子ども一人ひとりが安全、安心を感じる場所となっていることは高く評価できる。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

現在、幼児の在園が無く、子どもは学校で健康診断を受けている。
 毎朝子どもの健康状態を確認し、体調不良時は待ち時間の負担が無いよう病院へ事前に連絡を取った後に通院している。
 定期的に通院している子どもには職員が同行し、薬は職員室で保管している他、服薬変更等は医療機関との情報交換や相談に努めている。発達障害により薬の内容など理解することが難しい子どもには、「おちつくための薬だよ」など分かりやすく声掛けを行っている。
 ただし、職員間で医療や健康に関して学習する機会が少ない現状にあるため、今後の取組みに期待したい。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	□他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	□性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	□性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	□必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

子どもが性について正しい知識が持てるように、担当職員がプライベートゾーンの話を行ったり、中高生は男女に分かれて同性の職員が子どもからの質問に答えたり、女子は助産師を講師に招くなどの学ぶ機会を設けている。園内研修では、担当の職員が研修で学んできた“幼少期からの性教育の大切さ”について、フィードバックによる情報共有を図っている。性教育の基本となるマニュアルも整備している。ただし、現段階では年齢別に分かれた基本的な説明に留まっており、年齢ごとのプログラムを組んだ段階的な実施を予定としている状況にある。今後は、子どもが自分を守る大切さを知り、いのちと向き合うことができるよう、更なる取組みが待たれる。また、異性間のみならず、同性間における場面など、ジェンダー、セクシュアリティ教育の実施も望まれる。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	□施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	○
	□施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	□不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	□くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	○

【コメント】

行動上の問題を生じやすい子どもの特性等を、あらかじめ職員間で情報を共有化している。問題をとった子どもへの対応については職員ミーティングなど余裕をもって要因や課題を分析している他、リーダー会議で検討し、担当職員の話をごまめに聞き取りながら、他ユニットから職員が交代でサポートに回るなど園全体による支援体制を築いている。また、大学教授によるスーパービジョンを電話やメールにより受けており改善事例もある。ケースによっては、児童相談所に相談し、一時保護を行うなど協力を得ながら対応している。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	□問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	□生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	□課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	□大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	□暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

定期的に、園内の構造の点検や職員の配置などを確認している他、日頃から子どもの様子の変化を注視するなど、発生予防のための取組みを行っている。いじめについては子どもからの報告もあり、その際は報告した子どもにまず確認をとり処遇にあたっている。職員は、子ども間で起こった問題は必ず報告することとしており、職員会議等で話し合い適切に対応する体制を構築している。園だけで解決が困難と判断した場合は、児童相談所での一時保護や学校・警察からの協力も得ている。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

現在、心理担当職員が欠員しており、心理的支援が必要な子どもに対しては、外部の心理士に依頼して面談している。
 園では、定期的に大学教授を外部講師として招き、ケース会議及び講義を開き、心理的支援の勉強会を実施し職員が現場で役立っている。
 また、児童相談所の心理士が来島した際も相談できる機会となっている。
 現状では、心理療法担当職員が不在であるため、園内での心理療法の実施には至っていない。園長は、各方面に声掛けし、心理士の確保に努めていることが確認できる。今後の有資格者を配置した更なる取組みに期待したい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

小学生は毎朝10分間、所定の場所にて職員指導の下、公文を利用した学習を継続しており、学習習慣が身に付くよう工夫している。また、居室には一人ひとりの学習机を配しており、宿題や予習・復習ができる環境となっていることが確認できる。
 特別支援学校に通学している子どもにも希望を聞き取り、公文学習を行っている他、各ホームでは、担当職員が学習指導を行っており、夏休み期間中も傍についてサポートしている。
 現在、中学生、高校生についての学習指導の職員が不在であり、園長は今秋着任する学習指導担当の職員に期待している。
 本人の希望に沿って、塾に通っており、園内の図書室には学習コーナーを設けているなど、学習環境を整え、一人ひとりの学力に応じた援助に努めている。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

子どもの進路については本人の希望を尊重している。職員は、希望を聞き取り実現に向けての不安要素を率直に伝え、本人に考えるよう促している。中学に入ると普段の会話で進路について意向を尋ねており、職員は希望に沿った進路に進めるように早い段階からフォローしている。

就職を希望した場合は、社会のルールなどを説明し、卒業近くなると本人が自立した生活を営めるよう、訓練や教育を行っていることが確認できる。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校の許可を得たあと、ガソリンスタンドやスーパーマーケット、飲食店にてアルバイトしている子どもがいる。

就職の際に運転免許証が必要な場合は、自動車学校に通い免許を取得している。

職員は、子どものアルバイト先について、知り合いに尋ねたり積極的にサポートしていることがわかる。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

園では、子どもの日々の様子を保護者に伝えることを基本としており、電話で近況を伝える他、行事の案内や通知表を郵送している。

子どもによっては、夏休み冬休みなど長期の休みに一時帰宅しており、状況を把握し職員が同行することもある。園に戻ってきた時には、職員が様子を注意深く慎重に言動や行動を観察し、帰宅時に問題がなかったか注視している。

保護者の家庭復帰の希望が強い場合は、子どもや保護者の様子を児童相談所に報告し連携しながら、支援している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

園の位置する条件から頻りに保護者が訪れることがない。

保護者からの子ども引き取りの要求については、児童相談所と連携しながら子どもに不利益がないように取り組んでいる。面会や外出、一時帰宅などを通して、親子関係が再構築できるかを慎重に判断している。家庭引き取りの最終決定は児童相談所であるため、園では子どもの最善の利益を最優先に児童相談所と協議していることが、確認できる。